

或少年の呟き

システムチックな毎日をたどる
全てが有機的な関連性を有する社会
それにもずいぶん馴染んできた
楽しいこともたくさんあって
決して束縛的だとは思わない
しかし
ちょっとだけ感じるのは
想像の余地のないほどに敷き詰められた
「人間」という表示だ
目に見えるものの殆ど全てに刻まれたその表示
ある種の閉鎖的な世界がつくられている

かつて人間は自然に支配されていた
そして、それを支配することを願いつづけていた
今、人間はその夢を失ったのだ
手持ち無沙汰な僕たちには
どんな支配欲が残されているだろう
他民族を支配するなんてつまらないし
社会を牛耳るなんて、もっとつまらない
ましてや神になるなんてばかばかしい
何にもありゃしない
その上、今や「人類」なんて言葉は存在しない
ほかには何も無いのだから
自然保護なんて言葉があるくらいだ
畏怖に値するものなんてひとつもない

人間にもそりゃ様々な種類がある
だけど所詮僕と同じ人間なんだから、たかが知れている
いくら携帯でいろんな人とつながっていても
みんな似たりよったりで飽きちまう
その中でシステムチックな社会を作り上げたって
せいぜい軋轢を鎮圧しやすいぐらいのことだろう
尤も、飽和してゆくにつれ
その閉塞感に耐え切れぬ連中が次第に増加するだろうけど

ああ、僕が欲しいのは
支配欲を掻きたてるような相手だよ

畏怖に値するようなそんな相手だよ
社会に飽き足りないわけじゃない
「人間」という無意味な表示ばかりの世界に
すっかり飽きてしまっただけだよ

(2004.2.21)